

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000562
法人名	有限会社 すいせん
事業所名	グループホームすいせん川南
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1 (電話)0983-47-0234
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 17 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 6.8 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄筋 平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	理美容 オムツ代実費 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	315 円	昼食 315 円
	夕食	315 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	一般診療・・・川南病院 歯科診療・・・いずみ歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自立と尊厳 地域に貢献できるホーム」を理念に掲げ、全職員が理念に基づいたケアが提供できるように努力している。1年前に管理者や職員の交替があり、すべてにおいて1つ1つの積み上げが必要であったが、外部からの研修や内部研修を基礎から行い、現在につなげている。介護計画は立てているだけの計画にならないように、課題や目標 支援内容を書いた紙を職員の見やすい場所に貼り、常に意識してケアにつなげるように工夫している。利用者の地域の方との交流を図るため、社協が開催している地元の高齢者とのふれあい交流会への参加や幼稚園、小・中学校生徒との交流が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者が交代となり、改善に向けての取り組み方法等が引き継がれなかったため、前回の評価の結果を活かした改善への取り組みは現段階では行われていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義は理解している。自己評価への取り組みは、ユニットごとに全職員が話し合い評価している。自己評価項目の求められている内容の共有化は図れていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に1回実施している。利用者・家族・民生委員・役場職員・支援センター・職員が参加して行事報告等を行っている。しかし、地域交流に向けての話し合いや双方向的な会議になるような積極的な会議までには至っていない。今後は、運営協議会議を活用し地域との交流やホームが地域に貢献できる機会に繋がるように働きかけたいという意向がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「すいせん便り」を毎月家族に送付している。家族の面会が少ない場合には、電話を定期的に行い報告している。家族会を年に2回、行事と合わせて開催している。意見、不満、苦情を管理者や職員にいつでも言える様に声かけし、相談・苦情が生じた時は、職員全体で検討会を行い改善に向け対応している。結果は、家族にその都度報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年に数回、幼稚園との交流や小・中学生徒との交流があり、利用者も楽しみにしている。川南社協が開催している地元の高齢者とのふれあい交流会には2名の利用者と職員が、毎月参加している。しかし、ホームの近隣の住民との交流は出来上がっていない。今後は、運営推進会議の協力を得ながら地域連携に取り組みたいという意向がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者の自立と尊厳 地域に貢献できるホーム」を理念に掲げ、住み慣れた地域で安心した暮らしが継続できることを目標に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々のケアの実践に活かされるように、毎月のミーティングで説明し又、管理者は、記録や利用者への対応で気になる事があればその都度説明し理念の実践に繋げている。職員各々が理念に基づいた自分の考えを持っていることが、職員のヒアリングからも得られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に数回の幼稚園・小・中学生徒との交流は利用者も楽しみにしている。社協が開催している地元の高齢者とのふれあい交流会には利用者と職員が、毎月参加している。しかし、近隣の住民との交流は出来上がっていない。	○	日常的に地元の住民との交流が図られていくよう、自治会への加入や地区の行事への参加などに向けて取組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価への取り組みは、ユニットごとに全職員が話し合い評価しているが、自己評価項目の求められている内容の共有化は図れていない。前回の外部評価の結果を活かした改善への取り組みは現段階では行われていなかった。	○	定期的な勉強会等で、自己評価の内容や職員に求められていることの確認を行い、サービスの質の向上に繋げてほしい。又、外部評価で見出された課題に対し、改善へ向けて取組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3か月に1回定期的実施している。利用者・家族・民生委員・役場職員・包括支援センター・職員が参加して行事報告等を行っている。しかし、地域交流に向けての話し合いや双方向的な会議になるような積極的な会議までには至っていない。	○	その時々直に直面している課題解決に向けて運営推進会議を有効に活用してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者より、地域交流等に関する情報を受けたりしている。毎月利用者の状況や施設の報告を行いアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「すいせん便り」を毎月家族に送付している。家族の来訪時には必ず声かけをし、利用者の状況報告や相談を行い、話しやすい雰囲気作りに心掛けている。家族の来訪が少ない場合は、電話で報告している。預かり金はなく、利用者に必要な買い物が生じた場合は事前に家族に報告し了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回、行事と合わせて開催している。意見や苦情を管理者や職員にいつでも言える様に声かけている。苦情・相談が生じた時は、職員全体で検討会を行い改善に向け対応し結果は、家族にその都度報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年前に管理者や職員の退職が多くあり、利用者・家族に負担がかかったが、その後は、職員の異動等に関して十分配慮している。新人の職員には、事前に雰囲気を見てもらい利用者や触れ合っただけの関係を作り勤務するよう工夫している。2ユニットどちらの職員も交流が図れるよう声かけなじみの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の実務経験や年齢に応じて、記録や介護技術等の教育を行っている。外部講師による内部研修も行っているが、外部研修は十分参加できていない。研修参加後の口頭での報告はあるが、復命書はない。	○	職員の経験年数・得意分野・職務内容等に応じて研修計画をたて、働きながらトレーニングできる機会を充実してほしい。又、研修参加後は復命書作成や報告を行い、サービスの質の向上に活かしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加は積極的に行っている。管理者は、地域のホームとの連絡は密に取り、ホームの空き状況や待機状況を共有している。他のホームの行事や運営協議会議に参加し参考になっている。しかし、職員間の交流はまだ行っていない。	○	管理者間の交流は積極的に行えているので、是非職員間の交流も図り、職員の意識を高めサービスの質の向上につなげてほしい。地域の同業者と共にグループホームが地域に根ざしていけるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、利用者の見学の受け入れや職員が自宅・病院への訪問を積極的に行い馴染みの関係作りを行っている。利用までに数ヶ月以上かけて関係作りを図りサービス開始したケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員は、利用者に対し尊敬の念を持ち対応していく心がけている。日常生活の中で教えを請うことがあった場合は、すぐに実践し利用者へ結果を報告している。利用者から料理などの指導や説明をうけ、感謝し合う関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制で、利用者や家族の暮らし方の希望や思いの把握に努めている。リラックスされている時や散歩の時、1対1で対応しているときにじっくり話をするように心がけている。思いの把握が困難な場合は、本人の性格や生活習慣を考慮加味し、入居者一人ひとりのペースで生活できるように工夫し調整している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の必要性を、管理者が交代となった時期に職員全体で研修を行い、利用者への個別ケアは介護計画が重要となることを十分説明している。受け持ちの職員が中心となり、本人、家族、医療関係者から情報を取り、ミーティング等で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとの介護計画書(課題 目標 ケア内容)は、職員が日ごろ目に付きやすい台所に張ってあり、介護計画に基づいたケアの提供がなされてある。状況の変化や介護計画に沿った実施による効果は、その都度担当等に報告がなされているが、介護計画の見直しが書面上では定期的ではなかった。	○	管理者・職員の介護計画に基づいたケアの提供や報告は定着している。毎月の定期的なモニタリングの充実と介護計画の見直しに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外食外泊は、積極的に勧めている。利用者によっては、毎月の外泊・外食をしている方もいる。職員とともに墓参りや利用者の要望等による自宅訪問・ドライブの支援は行っている。ショートステイやデイサービスの支援を取り組みたいという思いはある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診の際は、利用者の現在の状態が分かるように情報提供書を作成している。利用者や家族の希望を大切にし、利用者ごとに病院が決まっている。病院通院に関しては、家族対応が基本であるが、緊急な場合は職員が対応する場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、医療を伴う重度化した場合や終末期の受け入れは難しいと考えている。このことは職員間でも共有化している。又、家族会を利用しての説明も行っている。職員は、利用者が状態悪化しないように、常に健康管理に注意し身体機能の維持と自立支援に心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇の研修は、採用時や定期的な職員会議で話し合い確認しあっている。特に入浴時や排泄のケア等は、「自分がしてほしくない対応はしない」を基本に心がけている。利用者一人ひとりのプライバシーに配慮しながら親しみやすい言葉かけに注意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態を見ながら、働きかけている。利用者一律の支援ではなく、その方の趣味や興味がありそうなことをそれとなく勧めている。散歩に行かれる方もいれば、いけばなや調理をしている方もおり、その方に応じた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら同じものを食べている。時間の要する利用者にも急かすことなくさりげなく声かけサポートしている。調理の下ごしらえや食事の準備、後片付けと利用者が参加する場面がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否の方には、職員を代えたり、時間を変えて勧めている。利用者の状態により入浴が出来ないときには、清拭を行い身体の保清に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや食事の準備、後片付け、洗濯物たみ、掃除など利用者に応じて役割があり力を発揮する場面がある。楽しみごとへの支援としては、生け花、縫い物、川柳、ちぎり絵等の趣味が出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や利用者の状態に合わせて、近隣の散歩を行っている。買い物の支援は少ないが、四季折々の外出の支援やドライブの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、入居者の不穏が強い時に一時期、鍵をかけざるを得ない時があったが、家族への説明も十分にし了解を得ていた。現在は鍵はかけていない。利用者の状態や希望に応じ、戸外へ同行し気分転換を図るよう努めている。	○	今後も鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に4回自主訓練を行っている。利用者も参加の日中の避難訓練や消火器の使い方の訓練も実施している。しかし、消防署が参加の訓練や地域住民が参加の訓練までは行っていない。又、災害時の非常食等の備蓄は行っていない。	○	消防署の避難訓練の実施や、運営推進会議を活用し地域住民の参加協力が得られるよう働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1枚の用紙に水分摂取量、食事摂取量、排泄チェック等がなされており、現状把握し易い状況になっている。利用者の病気に応じて、病院の職員から情報を取り配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームすいせんのホーム名らしく、玄関周りにはさまざまな花が見られるように植栽されている。季節を感じさせる貼り絵や生け花が共有空間を華やかにしている。ソファが置かれてあり、利用者がおのおのの場所でくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みを常にお願ひし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、持ち込みの少ない部屋も見受けたが、日ごろの利用者の生き生きした写真や保育園児からプレゼントされた絵を部屋に貼り、工夫している。		